

無人島キャンプ絵本に

伊是名村と市民グループ

伊是名村に属する無人島、屋那覇島で1986年から毎年夏に県内外の子どもたちを受け入れてキャンプ活動を行う東京の市民グループなどが、活動25周年を記念し、美しい海と子どもたちの様子を描いた絵本「みんな生きている海」

(2千円)を村と共同で発刊した。

副題を「日本国憲法第104条」と名付け、憲法に「地球によくはないこととはしてはいけない」との条文を追加するよう提言。収益金の2割は、村が年内に創設を目指す環境基金の原資と

絵本「みんな生きている海」



して寄付する予定だ。

28日に県庁内で前田政義村長と共和国「こんがりここなつ島」と称する野外キャンプを毎年続けている実行委員会の上柿和生委員長、絵本の作家で同キャンプにも長年かかわる長谷川京平さんが発表した。

長谷川さんは「25年前に潜った時の感動をそのまま書いた。(海水温上昇による)サンゴの白化現象が起きた時は悲しかったが、このきれいな海をいつまでも伝えたい」と語った。

「みんな生きている海」
が新聞で紹介されました